年　組

ア

ア

小学校国語「たしかめよう」（五・六年用）

学習発表会に向けて、田中さんのグループでは点字について調べ、準備をしています。

【①点字の仕組み】と【②ローマ字の仕組み】を読んで、【点字の説明】にまとめることにしました。【点字の説明】の中の　　　　　に入る内容をあとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉○【①点字の仕組み】と【②ローマ字の仕組み】の表し方の共通点を書くこと。

　　　　○書き出しの言葉に続けて、七十字以上百十字以内で書くこと。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 例 | え | ば | 、 | 点 | 字 | で | は | 、 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 70字 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 110字 |

・ＡからＺまでの文字を使って５０音を表すことができます。

・「A」「K」のような大文字と、「a」「ｋ」のような小文字があります。

・「あ、い、う、え、お」の文字に、「ｋ」の文字を組み合わせて「か、き、く、け、こ」を表します。

・「ｋ」のあとに「a」をつければ「か」、「i」をつければ「き」と読みます。

・「s」のあとに「a、i、u、e、o」がつけば、「さ行」となります。

・「あ行」と「ん」は、１文字で表します。その他の行は、２文字または３文字を組み合わせて表します。

【②ローマ字の仕組み】

・・・・・・

・・

・

くa a

・

・

・

きa a

・

・

かa a

・

あ

・

・

い

・・

う

・・

・

え

・・

お

【点字の説明】

点字は、目の不自由な方が使用する文字や記号のことです。指でさわって読むことができるように、打ち出した点の組み合わせによって文字を表します。

点字は、ローマ字と似ているところがあります。　例えば、点字では、「あ、い、う、え、お」の点に加えて別の点を加えることで、「か、き、く、け、こ」を表します。

同じように、ローマ字では、「あ、い、う、え、お」の書き方に、「ｋ」の文字を組み合わせて「か、き、く、け、こ」を表します。

このように、どちらもあ行と他の点や文字を加えることで表わすことができます。

【①点字の仕組み】

・指先で読み取れるよう、打ち出したり空白にしておいたりする６点の組み合わせで５０音と記号ができています。

・「あ、い、う、え、お」の点に、別の点を加えることで「か、き、く、け、こ」を表します。

・点字は、たて３点、横２列の６つの点の組み合わせで１文字が作られています。

小学校国語【たしかめよう】（五・六年用）解答例・採点要領

〈採点要領〉

〈正答例〉

・例えば、点字では、「あ、い、う、え、お」の点に、別の点を加えることで「か、き、く、け、こ」を表します。同じように、ローマ字では、「あ、い、う、え、お」の文字に、「ｋ」の文字を組み合わせて「か、き、く、け、こ」を表します。（百十字）

・例えば、点字では、「あ行」の点に別の点を加えることで、「か行」を表します。同じように、ローマ字では、「あ行」の文字に「ｋ」の文字を組み合わせて「か行」を表します。（八十一字）

◇同じ意味であればよいものとします。

◇【点字の説明】の書き方に合わせ敬体で書きます。

◇誤字・脱字については、今後の指導に生かすこととし、評価には含みません。

◇この記述は「点字の説明という枠の中で考えを示す」という力を見ますので、字数が不足しているもの超過しているものについては、不可とします。